学位報告１　１

別紙１　１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号

氏　　名　　菅江　崇

論　文　題　目

Classification of the celiac axis stenosis owing to median arcuate ligament compression, based on severity of the stenosis with subsequent proposals for management during pancreatoduodenectomy

（正中弓状靭帯による圧迫によって起きる腹腔動脈起始部狭窄を，その程度によって分類し，膵頭十二指腸切除術施行時に要する処置を提言する）

論文審査担当者　名古屋大学教授

主　査　柳野正人

委　員　名古屋大学教授

委　員　古森公浩

委　員　名古屋大学教授

委　員　後藤秀実

名古屋大学教授

指導教授　小寺泰弘

論文審査の結果の要旨

腹腔動脈の閉塞，狭窄は，膵頭部領域の切除手術に際しては，上腹部臓器血流の維持のために，温存可能な側副血行路の検索あるいは血行再建の準備など，厳密な術前評価と適切な術式選択が必要となる．膵頭十二指腸切除術施行例において腹腔動脈起始部の狭窄が確認された頻度は，約 4～10.5%とされているが，狭窄の原因としては正中弓状靭帯による圧迫が最も多い．

本研究では，過去 20 年間の当科における膵切除症例の中で，腹腔動脈狭窄を伴った症例について検討を行い，正中弓状靭帯による圧迫の形状を術前の画像所見から形態的に分類した．また，それぞれにおいて予想される対処法を提唱した．

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである．

1. これまでに正中弓状靭帯の圧迫による腹腔動脈起始部狭窄の形態的な分類の報告は無く，今後の膵頭部領域手術の術前評価に益する．
2. 形態的分類とともに臨床症状等が加味される事が望ましいが，これまでのところ，分類別に伴う有意な症状は確認されておらず，今後の症例蓄積が必要である．
3. 分類によって提示した術中処置による有害事象は認められておらず，十分に注意された手術操作が行われれば，安全な手技と言える．

本研究は，今後膵頭部領域の手術をより安全に行う為の術前評価と術中処置に関して，重要な知見を提供した．

以上の理由により，本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した．